

# 本学の受験生を対象とした『国語』に関する考察

傳野隆一、三瀬敬治

札幌医科大学医療人育成センター 入学者選抜企画研究部門

Review of the examination system “Japanese language” in our University

Ryuichi Denno, Keiji Mise

Department of Admissions, Center for Medical Education Sapporo Medical University

近年、「学力低下論争」の中で、「国語力」の低下を指摘する声も大きくなっている。そこで本学の受験生を対象に、大学入試センター試験の『国語』の得点状況から両学部間の相違について比較検討した。各学部の大学入試センター試験試験（5教科7科目）について平成20年度と平成25年度について、両学部の一般入試の得点状況を比較検討した。各学部の教科・科目の選択内容が異なるので単純に比較できない部分もあるが、あえて総合点900点満点で比較した。結果は、いずれの年度においても、またいずれの区分においても医学部と保健医療学部の一般入試における大学入試センター試験の総合得点を比較すると医学部の方が有意に高い得点を示している。しかし、大学入試センター試験の『国語』のみで比較検討すると、いずれの年度においても全受験生では医学部の方が有意に高いが、合格者では両学部間に有意差がみられない。

医療の現場では、学生や研修医における文章力や表現力の不足、患者とのコミュニケーションの困難さが問題となって、教養教育の必要性が語られている。従って医学部の入学試験では、論理的思考力や文章力が問われなければならない。しかし、「論理的な文章が書けない」といった類の問題を解決するために、教養教育としての「文章作成の訓練」が求められるというのは、あまりに簡明な構造である。問題は、大学生のどの段階においてどのような指導をする必要があるのかを見定め、大学の入口の部分だけでなく、学部教育の中でも、教員一人ひとりが問題点を認識して、不断の努力が必要であると考えられる。

## 1. 「国語力」の低下について

近年、「学力低下論争」の中で、「国語力」の低下を指摘する声も大きくなっている。この発端は、2003年に実施された「PISA」の国際学力調査で「読解力」の順位が8位（2000年実施）から14位（2003年実施）に低下したことが原因のようである。しかし、河合塾のデータでは顕著な国語力低下の証拠は見つからないとしている。国語力低下の真意は別としても、「国語」の学力低下に関する問題はどこにあるかということを示す市川は次のようにまとめている。日本語を用いた言語運用能力に関しては、「情報の取り出し」というような「受信」する力は備わっているものの、「発信」する力は相対的に低いと言わざるを得ないとしている<sup>1)</sup>。

そこで本学の受験生を対象に、大学入試センター試

験の『国語』の得点状況から両学部間の相違について比較検討した。入試の性格上他大学との比較は困難であり、本学の限られた資料での検討にならざるを得ない。

## 2. 過去5年間の大学入試センター試験『国語』の得点状況について

大学入試センター試験の『国語』は、「国語総合」「国語表現I」の内容を出題範囲とし、近代以降の文章、古典（古文、漢文）が出題されている。配点は、現代文100点、古文50点、漢文50点となっている。

今年の大学入試センター試験の『国語』は29科目（英語リスニングを除く）のうち18科目で昨年より平均点が低く、中でも『国語』はこれまでの過去最低を0.04点下回る101.04点であった（表1）。現代文の1問目

表1 大学入試センター試験『国語』(200点満点)の得点状況<sup>2)</sup>

|      | 平成21年度                 | 平成22年度                 | 平成23年度                 | 平成24年度                 | 平成25年度                 |
|------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|------------------------|
| 平均点  | 115.46<br>(N=484,871人) | 107.62<br>(N=497,431人) | 111.29<br>(N=505,214人) | 117.95<br>(N=502,525人) | 101.04<br>(N=516,153人) |
| 標準偏差 | 34.60                  | 30.17                  | 33.10                  | 35.32                  | 32.95                  |

が小林秀雄の文章に関する問題であり、2問目が牧野信一の小説に関する問題であった。特に第1問目が難しく、そのために平均点が低下したと言われている。

### 3. 本学の入試制度の概況について

本学には2学部があり、医学部の募集定員は110名、保健医療学部の募集定員は90名である。先ず、医学部の入試区分については、一般入試と推薦入試がある。一般入試では、さらに一般枠20名と北海道医療枠55名があり、推薦入試では、一般推薦20名と特別推薦15名がある。保健医療学部の入試区分は、一般入試と推薦入試がある。

医学部一般入試で必要とする大学入試センター試験の教科・科目は、『国語』が必須200点、地理歴史・公民は「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」『倫理、政治・経済』の10科目から1科目選択100点、数学は『数学Ⅰ・数学A』が必須100点、『数学Ⅱ・数学B』『工業数理基礎』『簿記・会計』『情報関係基礎』の4科目から1科目選択100点、理科は「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」「物理Ⅰ」の3科目から2科目選択200点、外国語は『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』の5科目から1科目選択200点になっている(表2)。合計点(900点満点)の順位で第1段階選抜が行われる。

#### (1) 医学部一般入試に必要な大学入試センター試験の教科・科目

表2 医学部一般入試に必要な大学入試センター試験の教科・科目等

| 教科   | 科目                                 | 科目等の選択方法       |
|------|------------------------------------|----------------|
| 国語   | 『国語』                               | 必須             |
| 地理歴史 | 「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」 | 左記の10科目から1科目選択 |
| 公民   | 「現代社会」「倫理」「政治・経済」<br>『倫理、政治・経済』    |                |
| 数学   | 『数学Ⅰ・数学A』                          | 必須             |
|      | 『数学Ⅱ・数学B』『工業数理基礎』『簿記・会計』『情報関係基礎』   | 左記の4科目から1科目選択  |
| 理科   | 「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」「物理Ⅰ」                    | 左記の3科目から2科目選択  |
| 外国語  | 『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』        | 左記の5科目から1科目選択  |

#### (2) 医学部一般入試における個別学力試験

医学部一般入試における個別学力試験の教科・科目は、数学は「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」「数学A」「数学B」「数学C」が必須200点、理科「生物Ⅰ」「生物Ⅱ」「化学Ⅰ」「化学Ⅱ」「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」3種類の組み合わせから2種類選択200点、外国語は「英語Ⅱ」「リーディング」「ライティング」が必須200点となっている(表3)。これに面接点100点を加えた合計700点に大学入試センター試験1/2を加えた総合1,150点で合否判定が行われている。

#### (3) 保健医療学部一般入試(看護学科)に必要な大学入試センター試験の教科・科目

一方、保健医療学部看護学科の一般入試に必要な教科・科目は医学部とほぼ同じであるが、科目の選択方法が異なっている。大学入試センター試験の教科・科目は、『国語』が必須200点、看護学科の科目選択方法は、地理歴史・公民は「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」『倫理、政治・経済』の10科目と理科の「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」「物理Ⅰ」の3科目を加えた

本学の受験生を対象とした『国語』に関する考察

表3 医学部一般入試に必要な個別学力試験の教科・科目等

| 教科  | 科目                                 | 科目等の選択方法                  |
|-----|------------------------------------|---------------------------|
| 数学  | 「数学Ⅰ」「数学Ⅱ」「数学Ⅲ」<br>「数学A」「数学B」「数学C」 | 必須                        |
| 理科  | 「生物Ⅰ」「生物Ⅱ」                         | 左記3種類の組合せから2種類の<br>選択（必須） |
|     | 「化学Ⅰ」「化学Ⅱ」                         |                           |
|     | 「物理Ⅰ」「物理Ⅱ」                         |                           |
| 外国語 | 「英語Ⅱ」<br>「リーディング」<br>「ライティング」      | 必須                        |

13科目から3科目を選択300点、数学は「数学Ⅰ」、『数学Ⅰ・数学A』の2科目から1科目選択100点、「数学Ⅱ」『数学Ⅱ・数学B』『工業数理基礎』『簿記・会計』、『情報関係基礎』の5科目から1科目選択100点、外国語は『英語』『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国

語』の5科目から1科目選択200点になっている。合計点(900点満点)の順位で第1段階選抜が行われる(表4)。第2段階選抜は、大学入試センター試験(900点満点)に第2次試験の面接200点を加えた総計1,100点で合否判定が行われる。

表4 保健医療学部一般入試(看護学科)に必要な大学入試センター試験の教科・科目等

| 教科   | 科目                                     | 科目等の選択方法           |                  |
|------|--|--------------------|------------------|
| 国語   | 『国語』                                   | 必須                 |                  |
| 地理歴史 | 「世界史A」「世界史B」「日本史A」<br>「日本史B」「地理A」「地理B」 | 左記の10科目から<br>1科目選択 | 残りの科目から<br>1科目選択 |
| 公民   | 「現代社会」「倫理」「政治・経済」<br>『倫理, 政治・経済』       |                    |                  |
| 理科   | 「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」「物理Ⅰ」                        |                    |                  |
| 数学   | 「数学Ⅰ」『数学Ⅰ・数学A』                         | 左記2科目から1科目選択       |                  |
|      | 「数学Ⅱ」『数学Ⅱ・数学B』『工業数理基礎』『簿記・会計』『情報関係基礎』  | 左記の5科目から1科目選択      |                  |
| 外国語  | 『英語』『ドイツ語』『フランス語』<br>『中国語』『韓国語』        | 左記の5科目から1科目選択      |                  |

(4) 保健医療学部一般入試(理学・作業療法学科)に必要な大学入試センター試験の教科・科目

同じ保健医療学部でも理学療法学科・作業療法学科の科目選択方法は看護学科と異なっている。大学入試センター試験の教科・科目は、『国語』が必須200点、地理歴史・公民は「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」『倫理, 政治・経済』の10科目から1科目選択100点、理科は「生物Ⅰ」「化学Ⅰ」「物理Ⅰ」の3科目から2科目選択200点、数学は「数学Ⅰ」『数学Ⅰ・数学A』から1科目選択100点、「数学Ⅱ」『数学Ⅱ・数学B』『工業数理基礎』『簿記・会計』、『情報関係基礎』の5科目から1科目選択100点、外国語は『英語』

『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』の5科目から1科目選択200点になっている。合計点(900点満点)の順位で第1段階選抜が行われる(表5)。第2段階選抜は、看護学科と同じように、大学入試センター試験(900点満点)に第2次試験の面接200点を加えた総計1,100点で合否判定が行われる。

(5) 医学部推薦入試に必要な大学入試センター試験の教科・科目

次に、推薦入試の選抜制度について述べる。医学部の推薦入試では、大学入試センター試験の成績は、選抜の対象とするか否かの判定にのみ用いている。教科・科目については、以下のとおりである。国語は、『国

表5 保健医療学部一般入試（理学・作業療法学科）に必要な大学入試センター試験の教科・科目等

| 教科   | 科目  | 科目等の選択方法       |
|------|---|----------------|
| 国語   | 『国語』  | 必須             |
| 地理歴史 | 「世界史A」「世界史B」「日本史A」<br>「日本史B」「地理A」「地理B」          | 左記の10科目から1科目選択 |
| 公民   | 「現代社会」「倫理」「政治・経済」<br>『倫理, 政治・経済』                |                |
| 理科   | 「生物I」「化学I」「物理I」                                 | 左記3科目から2科目選択   |
| 数学   | 「数学I」『数学I・数学A』                                  | 左記2科目から1科目選択   |
|      | 「数学II」『数学II・数学B』<br>「工業数理基礎」『簿記・会計』<br>『情報関係基礎』 | 左記の5科目から1科目選択  |
| 外国語  | 『英語』『ドイツ語』『フランス語』<br>『中国語』『韓国語』                 | 左記の5科目から1科目選択  |

語』が必須200点、地理歴史・公民は、「世界史A」「世界史B」「日本史A」「日本史B」「地理A」「地理B」「現代社会」「倫理」「政治・経済」『倫理, 政治・経済』の10科目から1科目選択100点、数学は『数学I・数学A』は必須100点、『数学II・数学B』は必須100点、理科は「生物1」「化学1」「物理1」の3科目から2科目選択200点、外国語は『英語』『ドイツ語』『フラ

ンス語』『中国語』『韓国語』の5科目から1科目選択200点になっている。合計点（900点満点）が一般推薦では675点以上、特別推薦では720点以上を選抜の対象としている（表6）。第2次試験では総合問題400点、面接400点、調査書200点の合計1,000点で合否判定を行っている。特別推薦では大学入試センター試験の合計点が720点以上を対象としている。

表6 医学部推薦入試に必要な大学入試センター試験の教科・科目等

| 教科   | 科目                                     | 科目等の選択方法       |
|------|--|----------------|
| 国語   | 『国語』                                   | 必須             |
| 地理歴史 | 「世界史A」「世界史B」「日本史A」<br>「日本史B」「地理A」「地理B」 | 左記の10科目から1科目選択 |
| 公民   | 「現代社会」「倫理」「政治・経済」<br>『倫理, 政治・経済』       |                |
| 数学   | 『数学I・数学A』                              | 必須             |
|      | 『数学II・数学B』                             | 必須             |
| 理科   | 「生物I」「化学I」「物理I」                        | 左記3科目から2科目選択   |
| 外国語  | 『英語』『ドイツ語』『フランス語』<br>『中国語』『韓国語』        | 左記の5科目から1科目選択  |

第2次試験では総合問題500点、面接400点、調査書・自己推薦書300点の合計1,200点で合否判定を行っている。この総合問題の内容については、情報保護のため詳細には述べられないが、概ね、和文の長文読解力、総合的理解力、記述力が求められている。その他、英文長文読解力、総合理解力などが求められている。

(6) 保健医療学部推薦入試に必要な大学入試センター試験の教科・科目等

保健医療学部の推薦入試に関しては、小論文100点、

面接100点、合計200点で第1次選考が行われ、その後、大学入試センター試験において本学が指定する教科・科目の合計点が全国平均点以上である者を第2次選考の合格者としている。この小論文の内容についても、情報保護の観点から詳細に記述することはできないが、一つは、和文の長文読解力、総合理解力、記述力等が求められる。その他、図表、絵等から問われている内容を理解し、記述する能力が求められる。

大学入試センター試験の教科・科目については、看

本学の受験生を対象とした『国語』に関する考察

看護学科では、『国語』が必須100点、地理歴史・公民、  
数学、理科の15科目から1科目選択100点、外国語は『英  
語』が必須200点で判定している(表7)。

表7 保健医療学部推薦入試(看護学科)に必要な大学入試センター試験の教科・科目

| 教科   | 科目                                     | 科目等の選択方法      |
|------|--|---------------|
| 国語   | 『国語』                                   | 必須            |
| 地理歴史 | 「世界史A」「世界史B」「日本史A」<br>「日本史B」「地理A」「地理B」 | 左記15科目から1科目選択 |
| 公民   | 「現代社会」「倫理」「政治・経済」<br>『倫理, 政治・経済』       |               |
| 数学   | 「数学I」『数学I・数学A』                         |               |
| 理科   | 「生物I」「化学I」「物理I」                        |               |
| 外国語  | 『英語』                                   | 必須            |

#### 4. 本学における大学入試センター試験の総合 得点および『国語』の結果について

##### (1) 医学部・保健医療学部一般入試における総合得点 の比較

各学部の大学入試センター試験試験(5教科7科目)について平成20年度と平成25年度について、両学部の一般入試の得点状況を比較検討した。各学部の教科・科目の選択内容が異なるので単純に比較できない部分もあるが、あえて総合点900点満点で比較した。

結果は表8に示す通り、平成20年度一般入試における総合得点は医学部全受験生717.08±75.43に対し、保健医療学全受験生628.94±97.85であり、医学部の方

が有意に高い。これを合格者と比較すると、医学部781.94±26.14に対し、保健医療学部698.02±38.89と医学部の方が有意に高くなっている。同じように、平成25年度一般入試における総合得点は医学部全受験生680.28±75.24に対し、保健医療学部597.44±89.80と医学部の方が有意に高くなっている。これを合格者と比較すると、医学部731.67±30.92に対し、保健医療学部663.10±29.46と医学部の方が有意に高くなっている。

このようにいずれ年度においても、またいずれの区分においても医学部と保健医療学部の一般入試における大学入試センター試験の総合得点を比較すると医学部の方が有意に高い得点を示している。

表8 大学入試センター試験の総合得点(平均点±標準偏差)の比較

| 年度               | 平成20年度                    |                          | 平成25年度                    |                          |
|------------------|---------------------------|--------------------------|---------------------------|--------------------------|
|                  | 全受験生                      | 合格者                      | 全受験生                      | 合格者                      |
| 医学部<br>(一般入試)    | 717.08±75.43*<br>(N=475人) | 781.94±26.14*<br>(N=77人) | 680.28±75.24*<br>(N=504人) | 731.67±30.92*<br>(N=85人) |
| 保健医療学部<br>(一般入試) | 628.94±97.85<br>(N=171人)  | 698.02±38.89<br>(N=75人)  | 597.44±89.80<br>(N=150人)  | 663.10±29.46<br>(N=74人)  |

※P<0.005有意差あり

##### (2) 医学部・保健医療学部一般入試における『国語』 の得点の比較

両学部における『国語』の得点状況の結果は表9に示す通りである。平成20年度一般入試で見ると、全受験生では医学部148.68±19.68に対し、保健医療学部141.80±24.55で、医学部のほうが有意に高くなっている。合格者で見ると医学部158.91±14.99に対し、保健医療学部156.02±16.38と両者に有意差は見られない。同じように平成25年度一般入試で比較すると、全

受験生では医学部128.28±21.68に対し、保健医療学部は119.97±21.70で、医学部のほうが有意に高くなっている。これに対し、合格者で見ると医学部136.87±19.55に対し、保健医療学部131.68±18.44で、両者に有意差は見られない。

このように大学入試センター試験の総合得点で比較すると医学部の方が有意に高いが、『国語』のみで比較検討すると、いずれの年度においても合格者では両学部間に有意差がみられない。

表9 大学入試センター試験『国語』の得点（平均点±標準偏差）の比較

| 年度               | 平成20年度                    |                         | 平成25年度                    |                         |
|------------------|---------------------------|-------------------------|---------------------------|-------------------------|
|                  | 全受験生                      | 合格者                     | 全受験生                      | 合格者                     |
| 医学部<br>(一般入試)    | 148.68±19.68※<br>(N=475人) | 158.91±14.99<br>(N=77人) | 128.28±21.68※<br>(N=504人) | 136.87±19.55<br>(N=85人) |
| 保健医療学部<br>(一般入試) | 141.80±24.55<br>(N=171人)  | 156.02±16.38<br>(N=75人) | 119.97±21.70<br>(N=150人)  | 131.68±18.44<br>(N=74人) |

※P&lt;0.05で有意差あり

## (3) 医学部・保健医療学部推薦入試における『国語』の得点状況

次に、両学部の推薦入試における大学入試センター試験の総得点は、科目数が異なるので比較することができないので、大学入試センター試験『国語』の得点を医学部推薦入試合格者と保健医療学部看護学科推薦入試合格者の得点を比較すると、表のように平成24年度、平成25年度においては、医学部の方が有意に高い(表10)。その要因の一つとしては、医学部推薦入試の最低点が決められているということである。一般推薦入試における大学入試センター試験の最低点は675点であり、特別推薦入試における最低点は720点である。

保健医療学部の推薦入試においても最低点が決められているが、受験した教科・科目の合計点が全国平均点以上と医学部に比べて基準点が低くなっている。その他の要因としては、一般入試では、両学部の合格者では有意差がなかったところから、2次試験の出題科目が考えられる。医学部推薦入試では、2次試験として総合問題があり、総合問題は和文の長文読解力、総合的理解力、記述力が求められている。その他、英文長読解力、総合理解力などが求められているところから、大学入試センター試験においても『国語』力のある学生が受験し、合格している可能性が推測される。

表10 推薦入試における大学入試センター試験『国語』の得点（平均点±標準偏差）の比較

| 年度                   | 平成23年度                  | 平成24年度                   | 平成25年度                   |
|----------------------|-------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 医学部<br>(推薦入試)        | 145.57±17.45<br>(N=35人) | 160.69±12.82※<br>(N=35人) | 143.46±20.65※<br>(N=26人) |
| 保健医療学部看護学科<br>(推薦入試) | 132.00±27.29<br>(N=10人) | 133.40±31.71<br>(N=10人)  | 124.90±24.76<br>(N=10人)  |

※P&lt;0.05で有意差あり

## 5. まとめ

我々は小・中・高の12年間『国語』を習っていることになるが、本当に国語力が身につけているかといえ、その判断は難しい。例えば、全国学校図書館協議会と毎日新聞社が毎年行っている全国の小・中・高等学校の児童生徒の読書状況の調査によれば、平成25年度における5月の1ヶ月間の平均読書冊数は、小学校では10.1冊であるのに対し、中学校では4.1冊、高等学校では1.7冊という結果が出ている<sup>3)</sup>。このように中学生以降の年代における読書量の低下が国語力の低下に結びついていると指摘する声が多い。文部科学省が2012年4月に実施した全国学力テストの道内の抽出校(459校)に、希望参加校(札幌市を除く1100校)を合算した道教委の報告書(2012年11月公表)によると、中学国語B(活用)63.7%で初めて全国平均63.3%を0.4

ポイント上回った。2007年に全国学力テストが始まって以来、北海道として「全国平均を上回る」科目のデータが確認されたのは初めてである。中学国語A(基礎)74.0%であるのに対し、全国平均は75.1%であり、1.1ポイント低くなっている。札幌市の中学国語4領域のうち「読むこと」に関しては3ポイント以上上回っている。理由について札幌市教育委員会は「中学生になると家庭学習の時間が増えるなど、学習意欲が改善している」としている<sup>4)</sup>。このように北海道における中学校の国語の低下も指摘されている。きわめて限られた大学、高等学校を対象とした調査によると、大学生は高校生に比べ、現代文よりも古文のほうが成績がよい。これもやはり読書離れにより現代文の読解力が不振となったであろうと推測している<sup>5)</sup>。国公立大学の学長に「学生の学力」について尋ねた1999年の調査で見ると、83.6%の学長が「低下している」と答えてい

## 本学の受験生を対象とした『国語』に関する考察

る。医学生を対象にした調査では、2012年11月15日に  
行われた全国医学長病院長会議での記者会見で、「医  
学生の学力低下問題に関するアンケート調査報告」を  
公表している。大学教員への意識調査の結果、「医学  
生の学力が低下している」との回答が、2年前の調査  
の86%から、94%（80校中75校）に増加している。そ  
の理由として最も多かったのが「ゆとり教育」（80校  
中65校）。以下、「医学部定員の増加」（80校中58校）、  
「若者全体のモチベーションの低下」（80校中44校）、  
「医学部教員の多忙」（80校中43校）などとなっている。  
大学生の「学力低下」に加えて、医療の現場では、学  
生や研修医における文章力や表現力の不足、患者との  
コミュニケーションの困難さが問題となって、教養教  
育の必要性が語られている。しかし、河合塾のデータ  
では顕著な国語力低下の証拠は見つからないとしてい  
るので、本学の受験生を対象とした大学入試センター  
試験『国語』の得点状況から検討した。2次試験で国  
語力を問うような問題が出題される医学部推薦入試の  
場合は、保健医療学部学生と比較して、大学入試セン  
ター試験『国語』の得点も有意に高いが、2次試験で  
理科・数学の問題が出題される一般入試場合には、有  
意差がなくなる。従って、入試問題で何を問うかはき  
わめて重要なことと考える。

MCAT (Medical College Admission Test) は全  
米の全医学部、全医科大学で利用されている入学者選  
抜テストである。試験では、問題解決能力、論理的思  
考力、文章力に加えて、医学研究に必要な自然科学、  
生物科学の知識が問われる。しかもMCATと医学部  
での教育成果との間に高い相関関係を認めている<sup>6)</sup>。  
医学部の入学試験では、論理的思考力や文章力が問わ  
れなければならないであろう。しかし、「論理的な文  
章が書けない」といった類の問題を解決するために、  
教養教育としての「文章作成の訓練」が求められると  
いうのは、あまりに簡明な構造である。問題は、大学  
生のどの段階においてどのような指導をする必要が  
あるのかを見定めることが必要だと述べている<sup>7)</sup>よう  
に、大学の入口の部分だけでなく、学部教育の中  
でも、教員一人ひとりが問題点を認識して、不断の努力  
が必要であると考えられる。

## 文献

1. Kei-Net/河合塾の大学入試情報サイト: いま求め  
られる「国語力」とは、Guideline、11月号、2007、  
p2-11 (2013年11月5日アクセス)  
<http://www.keinet.ne.jp/>
2. 大学入試センター: センター試験. 過去のセン  
ター試験データ. (2013年11月15日アクセス) [http://  
www.dnc.ac.jp/](http://www.dnc.ac.jp/)

3. 全国学校図書館協議会: 「第59回読書調査」の  
結果. (2013年11月15日アクセス) [http://www.j-sla.  
or.jp/](http://www.j-sla.or.jp/)
4. 第5部 基本に戻る. 読売新聞東京本社北海道支  
社編. 学力危機北海道 教育で地域を守れ. 札幌、中  
西出版、2013、p212-218
5. 島村直己、葉養正明、新名主健一ら. 大学生の国  
語力と英語力. CiNii Articles、67-68 (2013年11月15  
日アクセス) <http://ci.nii.ac.jp/>
6. 石岡恒憲: アメリカ医科大学入学者選抜テスト. 藤  
井光昭ら編著. 大学入試における総合試験の国際比較.  
東京、多賀出版、2002、p131-179
7. 仁野平智明: 大学初年次生に対する読むことの指  
導. 沖縄国際大学日本語日本文学研究、15 (2)、15-  
30、2011

